

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	公園維持管理に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	5	
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	公園緑地課			
施策	222快適な公園・緑地環境の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	公園サポーターとのコミュニケーションを大切に、各公園の状況などに応じた管理を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	引き続き、公園サポーターとのコミュニケーションを大切に、各公園の状況などに応じた管理を行う。
②①に基づく取り組み結果	各公園の状況などに応じた管理を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市が管理する都市公園 ふれあいの森	意図(対象をどうするのか)	来園者に対して気持ちの良い公園を提供する。
②事務事業の概要	都市公園及びふれあいの森の清掃、除草、樹木剪定、施設の管理及び維持工事等を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市民との協働管理においては、高齢化が進んでいる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	公園サポーターの公園管理によって、来園者に対して気持ちの良い公園を提供することができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	公園サポーター数	34	31	31	人	業務取得
	ii	公園サポーター管理公園数	40	39	39	箇所	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	144,364	149,631	金額(千円)	内容	145,479		
国支出金(千円)			104,510	公園管理委託			
県支出金(千円)			24,039	公園維持工事			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	144,364	149,631			145,479		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	都市公園数の増加や既存施設の老朽化に伴う維持管理費の増加。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	公園管理において、地域住民の参加を増やし、公園に対する愛着と意識を高める必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H28⇒29繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	緑化推進に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	5	
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	公園緑地課			
施策	222快適な公園・緑地環境の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	公園用地の賃貸借、ふれあいの森及び保全林等の指定により、緑の保全に努め、市民に緑とふれあえる場を提供する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	公園用地の賃貸借、ふれあいの森及び保全林等の指定により、緑の保全に努め、市民に緑とふれあえる場を提供する。
②①に基づく取り組み結果	公園用地の賃貸借、ふれあいの森の使用貸借、みどりの保全助成金の交付などを行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市公園、ふれあいの森等	意図(対象をどうするのか)	市民が利用できる緑地の確保、土地所有者の負担軽減。
②事務事業の概要	公園用地の賃貸借、ふれあいの森の使用貸借及び保全林等の指定並びに用地取得などを行い、緑の保全と創出を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	個人所有の樹林地の適正な維持管理には相当な費用を要することから、個人で維持管理していくのが難しく、相続発生などをきっかけに宅地化する傾向にある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	①用地取得の財源として、みどりの基金に積立を行った。②緑道整備事業の用地購入費の支払いを行った。③公園用地の賃貸借を行った。④保全林、保存樹木及びふれあいの森にみどりの保全助成金の交付を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	市民一人当たり公園面積	2.91	2.97	2.97	m ² /人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	73,408	72,207	金額(千円)	内容		21,484	
国支出金(千円)			50,172	みどりの基金積立金			
県支出金(千円)			10,736	用地購入費			
市債その他(千円)	1,000		6,455	公園用地借上料		249	
一般財源(千円)	72,408	72,207	3,845	みどりの保全助成金		21,235	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	保全林、ふれあいの森、借地公園について、相続発生などによる急な買い取り要望への対応が求められる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	1低い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	緑の基本計画に掲げた緑の将来像の実現に向けて、緑の保全と緑化の推進が必要のため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H28⇒29繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由				
	令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	街区公園整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	5	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	公園緑地課			
施策	222快適な公園・緑地環境の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	東道野辺ふれあいの森整備工事及び鎌ヶ谷一丁目ふれあいの森用地先行取得を実施する。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	平成30年度から繰越した東道野辺ふれあいの森公園整備工事を完了させる。 丸山三丁目ふれあいの森の用地先行取得、鎌ヶ谷一丁目ふれあいの森の用地買戻しを実施する。
②①に基づく取組み結果	東道野辺ふれあいの森公園整備工事及び鎌ヶ谷一丁目ふれあいの森用地先行取得及び買戻しを実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	街区公園	意図(対象をどうするのか)	整備
②事務事業の概要	街区公園整備のための用地取得、実施設計及び整備工事などを実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	東道野辺ふれあいの森公園の整備にあたり、地元自治会から防犯対策として防犯カメラの設置等を要望されている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	①東道野辺ふれあいの森公園整備工事を実施。②鎌ヶ谷一丁目ふれあいの森用地先行取得を実施。③鎌ヶ谷一丁目ふれあいの森用地の一部について買戻しを実施。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	市民一人当たり公園面積	2.91	2.97	2.97	m ² /人	業務取得
	ii	東道野辺ふれあい森公園整備工事			38	%	業務取得
	iii	鎌ヶ谷一丁目ふれあい森用地取得率			6	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	43,921	92,490	金額(千円)	内容		233,668	
国支出金(千円)	14,089	17,600	32,900	公社預託金		64,400	
県支出金(千円)			28,347	公園整備工事		200	
市債その他(千円)	22,900	60,900	24,107	用地購入費		126,500	
一般財源(千円)	6,932	13,990	3,471	用地取得事務手数料		42,568	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	用地先行取得の買戻しは期限があり、財源となる国費の確保が課題。東道野辺ふれあいの森は寄付用地の崖地対策の工法と財源が課題。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	緑の将来像の実現に向けて、市民一人当たり公園面積の目標水準を目指し、整備を進めていく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	用地取得、実施設計など	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	用地取得、実施設計など実施	135,729	135,729	当初	98,267	92,490	H29からの繰越	0
				H28⇒29繰越	0			
③達成状況	未完了			補正	36,875		現年分	92,490
④未完了・非着手の理由	東道野辺ふれあいの森公園整備工事を繰越したため。			流用・充当	587			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)						37,442

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	公園施設長寿命化事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	5	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	公園緑地課			
施策	222快適な公園・緑地環境の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	長寿命化計画を基に維持管理を実施。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	引き続き、長寿命化計画を基に維持管理を実施。
②①に基づく取り組み結果	長寿命化計画を基に維持管理を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	鎌ヶ谷市内の公園施設	意図(対象をどうするのか)	既存施設の長寿命化対策及び安全対策の強化を進める。
②事務事業の概要	公園施設の長寿命化計画を定め、計画的な維持管理を行うことにより、安全の確保と、維持管理予算の平準化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	公園施設の老朽化が急速に進む中で、計画的な維持管理に取り組むことが必要となっている。誰もが安心して利用出来る都市公園の管理が望まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	長寿命化計画を基に市制記念公園外2公園の遊具を更新をした。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	対象公園数	176	176	176	箇所	業務取得
	ii	長寿命化対策計画対象施設数	8.8	11.1	14.3	%	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	18,184	11,328	金額(千円)	内容	69,420		
国支出金(千円)	7,911	5,000	8,920	公園遊具更新工事	31,433		
県支出金(千円)			1,728	実施設計委託			
市債その他(千円)	5,000	5,000			27,400		
一般財源(千円)	5,273	1,328			10,587		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の老朽化が進む中、修繕・更新費用の平準化を図り、計画的に事業を進めることが課題。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	安心、安全な公園を目指し、公園施設の老朽化に対応した更新を実施していく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	施設の修繕・更新	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	公園施設長寿命化整備	14,532	14,532	当初	16,000	11,328	H29からの繰越	0
				H28⇒29繰越	0		現年分	11,328
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-1,468			
				令和元年度への繰越額(単位:千円)			0	

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	桜×鎌ヶ谷＝魅力アップ事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	5	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	公園緑地課			
施策	222快適な公園・緑地環境の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(＝事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市制記念公園及び総合運動公園に8本植樹する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	市制記念公園及び新鎌ヶ谷三丁目第一公園に7本植樹する。
②①に基づく取り組み結果	市制記念公園及び総合運動公園に8本植樹した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新鎌ヶ谷地区から市制記念公園周辺の「桜ゾーン」	意図(対象をどうするのか)	賑わいの創出による市の魅力アップ
②事務事業の概要	新鎌ヶ谷地区から市制記念公園周辺の「桜ゾーン」に、里親制度により桜を植樹し、人を誘導し、回遊性を生み出すことで賑わいを創出し、市の魅力アップを図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	74本の植樹を計画していたが、具体的に植樹可能箇所を調査した結果、59本の植樹を行う計画に変更となった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	桜の里親制度による桜の植樹						
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠	
	i	植樹本数	32	38	46	本	業務取得
	ii						
iii							
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	3,913	910	金額(千円)	内容	2,194		
国支出金(千円)			877	桜の植樹工事			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)	120	160			140		
一般財源(千円)	3,793	750			2,054		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	歩車道や地下埋設物への影響から将来の桜の成長に見合う植樹場所の確保が難しい。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	桜×鎌ヶ谷＝魅力アップ事業実施計画に基づき、引き続き桜の植樹を行うことで、市の魅力アップを図っていくため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	植樹工事	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	桜の植樹8本実施	1,448	1,448	当初	1,448	910	H29からの繰越	0
				H28⇒29繰越	0		現年分	910
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
				令和元年度への繰越額(単位:千円)			0	